



ASSESSMENT OF TECHNOLOGY  
FOR BUILDING CONSTRUCTION  
GBRC FOUNDATION

GBRC 性能証明 第 10-14 号 改

## 建築技術性能証明書

技術名称：ニューバースパイルⅢ工法—鋼管杭圧入工法—（改定）

申込者：株式会社新生工務 代表取締役 神農 一求  
愛知県名古屋市守山区小幡中一丁目 8 番 17 号

技術概要：本技術は、鋼管の先端に独自形状の三角形の鋼製掘削刃を 3 個装備したものを地盤中に圧入し、これを杭として利用する技術である。本技術は、2010 年 8 月 26 日に(財)日本建築総合試験所建築技術性能証明 第 10-14 号として性能証明されたものであり、今回の改定では、鋼管の厚さの追加、最大施工深さの変更および杭の打ち止め管理方法の追加を行っている。

開発趣旨：本技術は、主に小規模建築物を対象とし、低騒音・低振動で、かつ、狭小地での施工性を考慮して開発した杭工法である。本工法の特徴は、独自形状の掘削刃を杭先端に装備することで、圧入（圧入困難な場合の回転貫入も含む）の際の杭先端部での排土を容易にして施工性を向上させていること、および、圧入力を測定して管理することで確実な支持力管理を実現していることである。また、本工法をアンダーピニング工事に適用する際に用いるための溶接用継手部品を開発し、アンダーピニング工事における溶接継手の品質の向上を図っている。

当財團の建築技術認証・証明事業実施要領に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。

平成 23 年 10 月 26 日

財団法人 日本建築総合試験所

理事長 辻 文 三



記

証明方法：申込者より提出された下記の資料により性能証明を行った。

資料①：性能証明のための説明資料

②：設計・製造・施工基準

③：載荷試験資料

資料①には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した説明資料がまとめられている。

資料②は、本工法の設計・製造・施工基準であり、設計フロー、支持力算定式などの設計方法の他、使用材料、杭の製造方法及び品質管理方法、施工方法および施工管理方法が示されている。

資料③には、資料①で用いた個々の載荷試験結果や立会施工試験報告書などが取りまとめられている。

証明内容：本技術についての性能証明の内容は、鉛直支持力についてのみを対象としており、以下の通りである。

申込者が提案する「ニューバースパイルⅢ工法 製造・施工基準」に基づいて製造、施工された鋼管杭の鉛直荷重に対する許容支持力を定める際に必要な地盤の極限鉛直支持力は、「ニューバースパイルⅢ工法 設計基準」に定めるスウェーデン式サウンディング試験の結果に基づく支持力算定式で適切に評価できると判断される。

## 建築技術性能認証委員会委員

委員長	松井千秋	九州大学	名誉教授
副委員長	窪田敏行	近畿大学	名誉教授
"	富永晃司	広島大学	名誉教授
委員	伊藤淳志	関西大学環境都市工学部	准教授
"	内田直樹	(財)熔接研究所	理事
"	大島昭彦	大阪市立大学大学院工学研究科	教授
"	大野義照	大阪大学	名誉教授
"	金子佳生	京都大学大学院工学研究科	教授
"	河野昭彦	九州大学大学院人間環境学研究院	教授
"	桑原進	大阪大学大学院工学研究科	准教授
"	甲津功夫	大阪大学	名誉教授
"	小林克巳	福井大学大学院工学研究科	教授
"	菅野俊介	広島大学	名誉教授
"	鈴木祥之	立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構	教授
"	田才晃	横浜国立大学大学院工学研究院	教授
"	田中暉義	京都大学防災研究所	教授
"	田中剛	神戸大学大学院工学研究科	教授
"	田中仁史	京都大学防災研究所	教授
"	谷川恭雄	名古屋大学	名誉教授
"	中塚信	大阪工業大学工学部	特任教授
"	平石久廣	明治大学理工学部	教授
"	松尾雅夫	社団法人日本建築構造技術者協会	
"	三谷勲	神戸大学	名誉教授
"	南宏一	福山大学	名誉教授
"	森野捷輔	三重大学	名誉教授
"	山崎雅弘	岡山理科大学工学部	教授
"	井上一朗	(財)日本建築総合試験所 試験研究センター	センター長
"	角彰	(財)日本建築総合試験所 建築確認評定センター	審議役
"	永山勝	(財)日本建築総合試験所 試験研究センター	部長

## ニューバースパイルⅢ工法 —鋼管杭圧入工法—（改定） 評価専門委員会委員

主査	山崎雅弘	岡山理科大学工学部	教授
委員	下平祐司	(財)日本建築総合試験所 試験研究センター	主席専門役